

創造・誇り・愛！ 輝く七中 ^{きら}煌めけ生徒！！



とちのき

〒190-0034 東京都立川市西砂町 6-28-3

TEL (042) 531-0511 FAX (042) 531-6103

立川市立立川第七中学校

校長 水越 伸朗

学校だより

第11号

令和7年3月19日



七中 HP URL

友 情

校長 水越 伸朗

今日は、立川第七中学校の卒業証書授与式です。今までの三年間の思いを胸に、卒業生が新たな道に進んでいきます。新しい体育館で行われる初めての卒業証書授与式。静寂に包まれ、凜とした雰囲気の中かで式が行われました。式辞では、仲間を大切にする「友情」にまつわる話をしましたので、一部を紹介します。

本日、卒業証書授与式を挙行できたのも、保護者、地域の皆様方のご支援のおかげです。あらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

<前略>

このように、今まで、立川第七中学校の最上級生として活躍してきた皆さんの、今後の人生に向けて、人として大切な「友情」ことについて、お話をいたします。

戦国時代の後期、今の石川県金沢市を拠点とし、加賀100万石の礎を築いた、前田利家という武将がいました。その前田利家は、「人間は、不遇になった時、友情の何たるかを知るものだ。」という格言を残しています。なぜ、利家は、このような言葉を残したのでしょうか。

利家は、織田信長の家臣として働いていましたが、若い時、信長に罰せられたことがありました。打ち首こそ免れたものの、家臣として使えることはできなくなり、仕事を失った状況になってしまったのです。そうすると、今まで親しかった友人の態度が3つに分かれました。ひとつは、いい気味だと思って笑う者でした。もうひとつは、利家が逆恨みして謀反を起こすのではないかと疑いにかかる者でした。そして最後が、心底、本当に心配してくれる者でした。自分は絶体絶命の状況に陥ってしまった。いったいどれだけの人間が助けてくれるのだろうか、大きな不安を抱えていた利家は、この経験から、「人間は、不遇になった時、友情の何たるかを知るものだ。」という格言を残したのです。

この時、本当に心配してくれた友人の一人が、豊臣秀吉です。その後、利家は、秀吉が全国を統一すると、秀吉を支える五大老の一人として活躍しました。

皆さんは、これから先の長い人生において、文化、芸術、政治、経済、国際情勢など、多種多様な知識を得ていくとともに、社会の一員として、様々な経験をすると思います。時には、いくつかの困難な状況や厳しい場面を経験することもあるでしょう。そのような時、支えになり、励まし、応援してくれるのが、真の友情をもった仲間です。そして、ここにいる145名の皆さんには、自分の仲間が苦しい状況の時に、真の友情をもって支えてあげられる人になってもらいたいと思います。

科学技術の発展が目覚ましく、日々、社会が進化を続けている現代ではありますが、人と人との心をつなぐ「友情」が社会を支えていくひとつであることに変わりありません。

令和の時代を築く皆さんには、若者の中心として、「友情」をもって大いに活躍してもらいたいと思います。そして、「友情」を大切にして、自分自身も高め、大きく成長してください。

<後略>